


JICA国内機関の取組み(事例紹介)

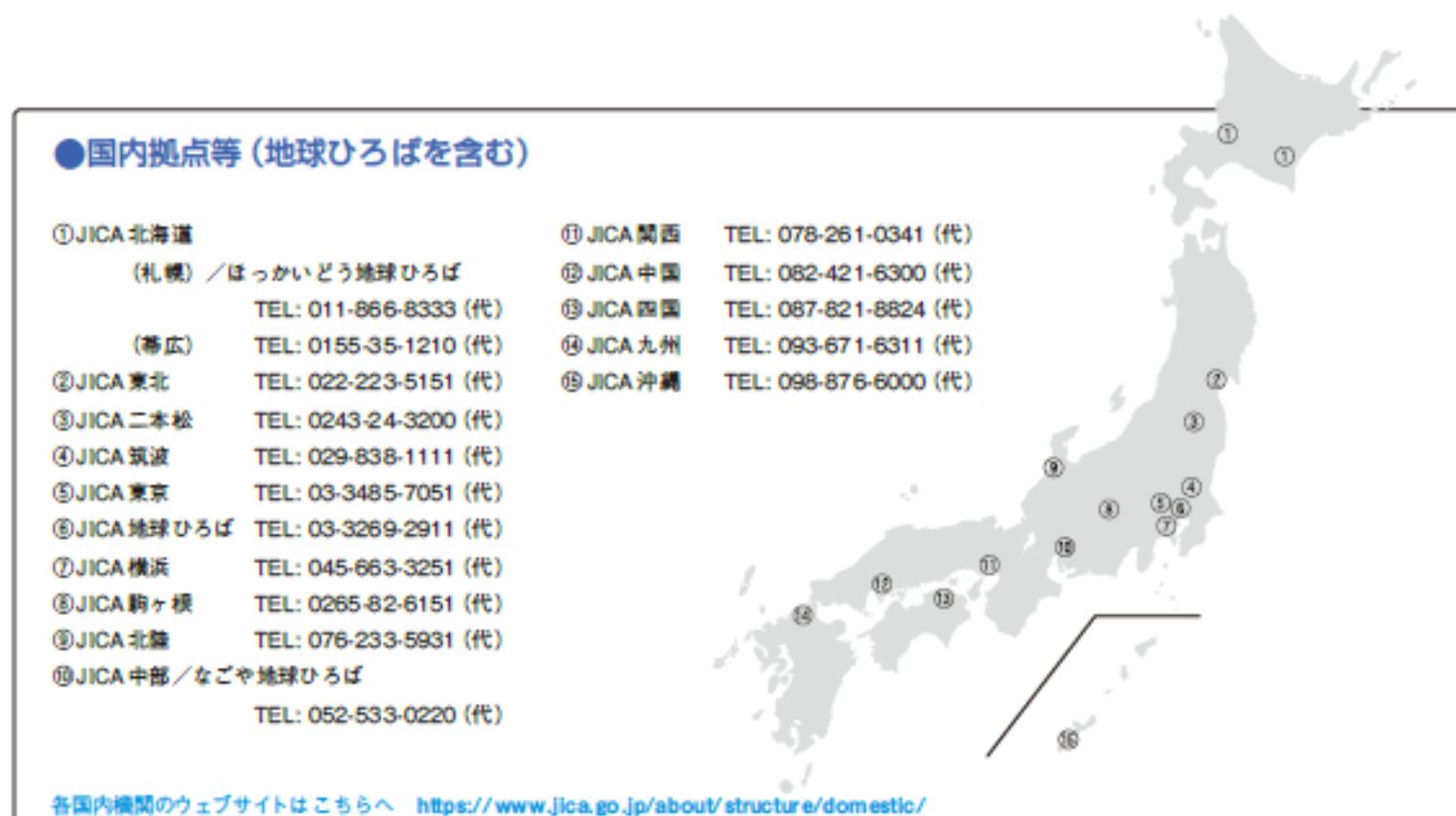
JICA筑波
野口拓馬



独立行政法人 国際協力機構

JICAの国内拠点の役割 = 地域と途上国の結節点

- JICAは国内に15の拠点をもち、日本全国を網羅



JICA国内拠点の主な事業

■研修員受入事業

- ✓年間約8,000人の途上国の国、自治体、大学、公益法人、民間企業、NGOの方々を研修員として受入れ
- ✓日本の知見を提供

■地域携事業

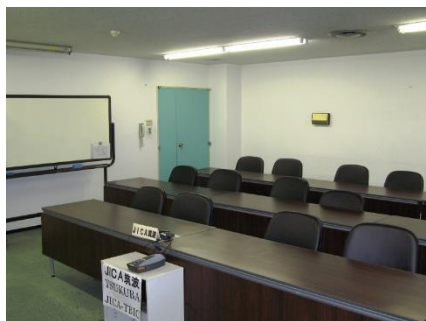
- ✓民間連携事業
- ✓草の根協力、JICA海外協力隊事業等

■開発教育支援事業

- ✓出前講座、施設訪問、
- ✓教師海外研修、国際協力実体験プログラム

途上国のSDGs達成に向けた課題解決のために

- 現地のニーズに対応した事業
- 現状に即した事業を展開
- JICA筑波では、自前の施設を活用した実務的で長期間の研修を実施



研修員受入事業におけるスマート農業導入事例

■ JICA筑波

- ✓ スマート農業にかかる政策の紹介(農水省)
- ✓ スマート農業研究技術・開発プロジェクトの紹介(農研機構)(井関農機)(クボタ)
- ✓ スマート農業の導入事例の視察((株)agri-new winds)(おうみ富士農協)

■ JICA帯広

- ✓ 農業情報活用のためのICT技術向上コースの実施
- ✓ 農業者向けの衛星情報の配信や、その活用事例を紹介

■ JICA九州

- ✓ IoTを推進し、AI・ドローン、ロボットアームなどを活用し、生産性の向上を目指している農家への視察

民間連携事業における国内拠点との連携事例

■ JICA筑波

- ✓アサヒビールのビール酵母農業資材の紹介と研修員を活用したマーケティング

https://www.jica.go.jp/press/2019/20190425_41.html

- ✓トヨタモビリティ基金による多目的エンジンの紹介と研修員を活用したマーケティング

■ JICA帯広

- ✓北海道食関連企業とマレーシアハラールビジネスのマッチング

途上国、地域、JICAの3者のWin-Win-Win構造の構築 (@JICA筑波)

途上国の課題解決のための

- JICA筑波の施設(圃場、実習施設、ハウス等)を活用し、研修事業を通じて、農業開発、栽培技術、マーケティング等にかかる技術・製品の展示・紹介
- 研修員との意見交換

JICAの国内機関の中で、農業分野に強みを持つ。
年間700名程度の研修員

都内から日帰りできる距離
車のアクセスがよい

政府の中核を担う
ような研修員へ売り
込みができる

研修員のバックグラウンドは
様々(地域・国・職位・所属)

途上国の現場の生の情報を、
研修員との直接のやり
取りで得られる。

最後に

- JICAの国内拠点は、地域と途上国の結節点
- 世界中から来た研修員が常にいる。
- ぜひJICAの国内拠点にお声がけいただきたい。